

第2節 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向

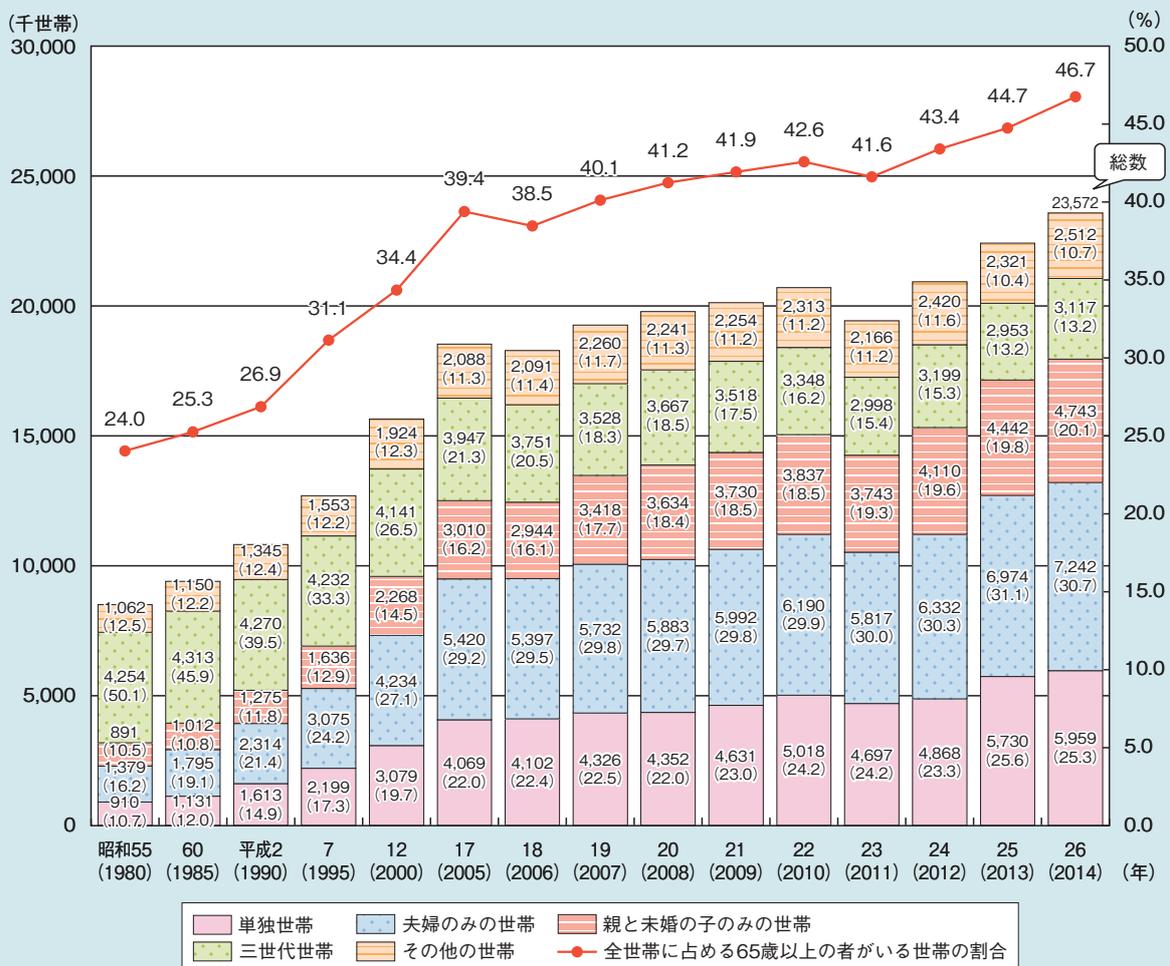
1 高齢者の家族と世帯

○高齢者のいる世帯は全世帯の約半分、そのうち「単独世帯」・「夫婦のみの世帯」が過半数

・65歳以上の高齢者のいる世帯は増え続けており、平成26（2014）年現在、世帯数は23,572千世帯であり、全世帯（50,431千世帯）の46.7%を占める（図1-2-1）。

そのうち、「夫婦のみの世帯」が一番多く約3割となっており、「単独世帯」と合わせると過半数を占める。

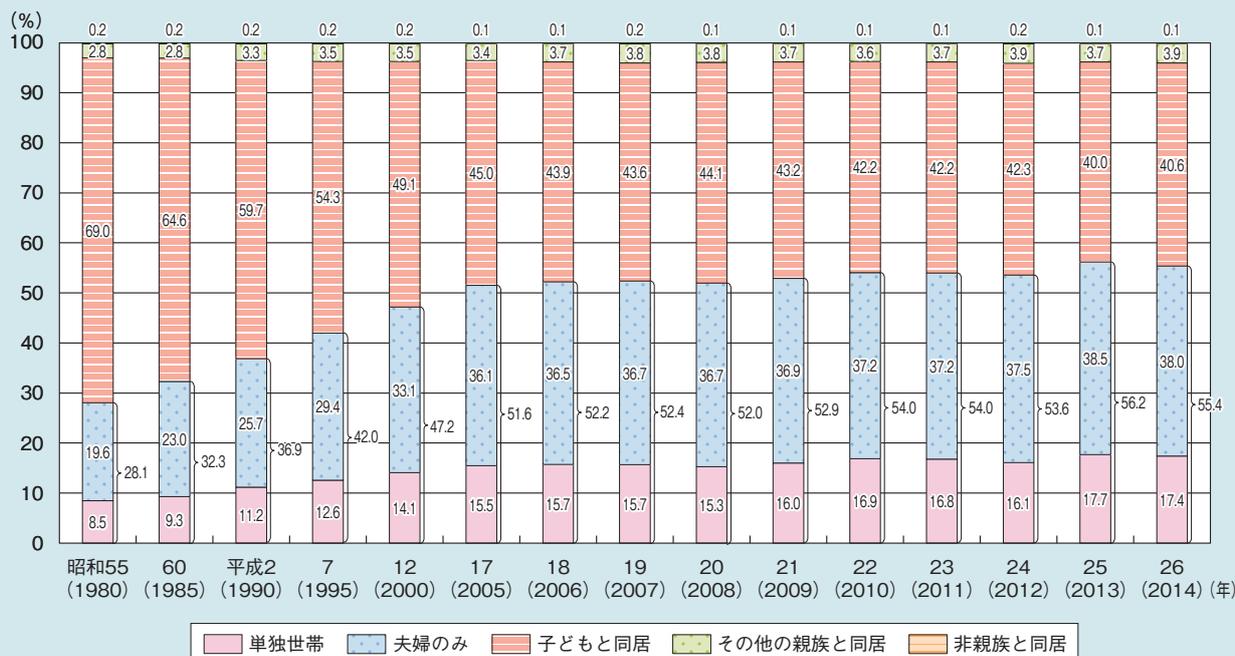
図1-2-1 65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合（世帯構造別）と全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合



資料：昭和60年以前の数値は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降の数値は厚生労働省「国民生活基礎調査」による
 (注1) 平成7年の数値は兵庫県を除いたもの、平成23年の数値は岩手県、宮城県及び福島県を除いたもの、平成24年の数値は福島県を除いたものである。
 (注2) () 内の数字は、65歳以上の者のいる世帯総数に占める割合 (%)
 (注3) 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

・65歳以上の高齢者について子供との同居率をみると、昭和55（1980）年にほぼ7割であったものが、26（2014）年には40.6%となっており、子供との同居の割合は大幅に減少している。一人暮らし又は夫婦のみの世帯については、昭和55（1980）年には合わせて3割弱であったものが、26（2014）年には55.4%まで増加している（図1-2-2）。

図1-2-2 家族形態別にみた65歳以上の高齢者の割合



資料：昭和60年以前は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降は厚生労働省「国民生活基礎調査」

(注) 平成7年の数値は兵庫県を除いたもの、平成23年の数値は岩手県、宮城県及び福島県を除いたもの、平成24年の数値は福島県を除いたものである。